

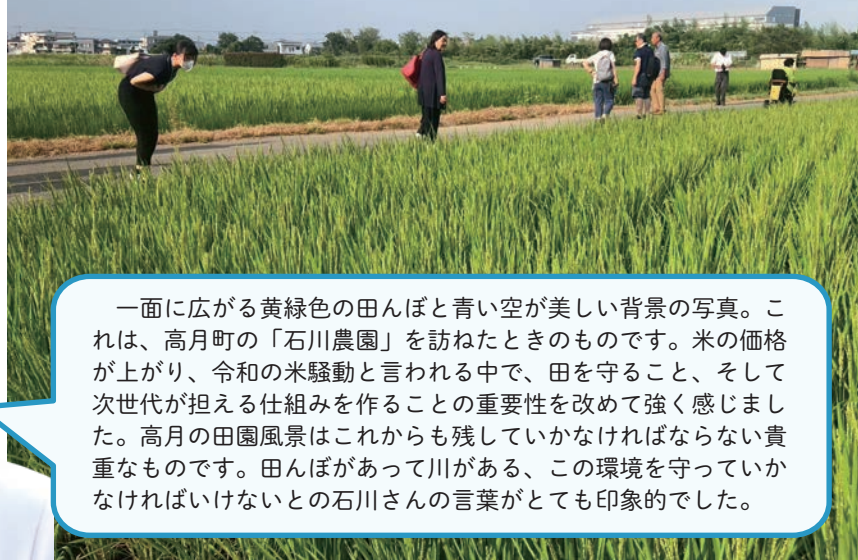
玉正さやか

市議会レポート VOL. 2

発行日：2025 11/20

発行元：八王子市議会
八王子・生活者ネットワーク
(発行責任者：玉正さやか)
〒192-0066 八王子市本町 3-4 TRY ビル 3 階
■TEL：042-623-8802
■FAX：042-627-4507
■メール：hachioji-net@nifty.com

厚生委員 まちづくり公社諮問委員
表彰審査委員会委員



一面に広がる黄緑色の田んぼと青い空が美しい背景の写真。これは、高月町の「石川農園」を訪ねたときのものです。米の価格が上がり、令和の米騒動と言われる中で、田を守ること、そして次世代が担える仕組みを作ることの重要性を改めて強く感じました。高月の田園風景はこれからも残していかなければならない貴重なものです。田んぼがあって川がある、この環境を守っていかなければいけないとの石川さんの言葉がとても印象的でした。

決算等審査特別委員会

「桑都ペイ」は地域通貨本来の役割を果たしたか

地域コミュニティや地域経済の活性化に活かされている？

決算等審査特別委員会は、市の前年度の予算執行が適切に行われたか、効率性や適正性、公平性の観点から審査するために設置する特別委員会です。

昨年度の市の事業の中から、デジタル地域通貨「桑都ペイ」を取り上げて質疑を行いました。本事業はこれまで、アプリの登録者を増やす取組や運営委託費などに、多額の税金が投じられてきました。

2024 年度における運営費および人件費として約 6,600 万円が計上されているのに対し、市民によるポイント利用実績は約 220 万円にとどまっています。市は、安定したサービス提供のために必要な運営費であったこと、また、ポイント利用実績については数字では計れない効果もあったとの認識を示していますが、本来の本事業の目的は地域経済や地域コミュニティの活性化であることを踏まえると、公



質疑動画は
こちらから



共が担うデジタル地域通貨事業としての意義が十分に果たされているとは言い難い状況です。

今後は、東京都の地域通貨事業である「東京アプリ」との統合や棲み分けの検討を進めていく方向性が示されています。地域経済の活性化や循環の促進、地域コミュニティの活性化、行政サービスの利便性向上といった、本来の目的を踏まえ、市民にとって真に必要な事業となるよう、改めて本事業のあり方を検討していくことが必要だと考えます。

2024 年度決算認定について反対をしました

● 高齢者福祉事業

多くの事業所の経営が困難な状況に置かれていることを踏まえ、国に対して制度の抜本的な見直しを求め、市として有効な施策を積極的に講じるべき。

● 障がい福祉サービス

制度改正により加算報酬取得に係る業務負担が増加。現場の実情に即した実効性ある施策を講じるべき。

● 予防接種事業

副反応被害が相次いだ HPV ワクチン等、多額の税金を投入して自治体が積極的にワクチン接種を進めることに疑問。

● 国民健康保険税

物価高騰や実質賃金が上がらない状況の中連続した値上げで加入者に重い負担を強いることが問題。

● デジタル地域通貨の活用

地域経済の循環やコミュニティの活性化という目的に対し、昨年度の実績からは公共の事業としての意義が十分に果たされていない。

● 日本遺産の活用

イベント開催に多額の税金を投じていることや、貸付によって不透明さが生じていることなど、本制度に疑問。

● 川口土地区画整理事業

残された北側公園について、人の手を入れ過ぎることのない自然公園となるよう、市が本事業に責任を持って関わっていくことを強く求める。



長期休みの子どもたちへ 安全な居場所を

共働き世帯の増加や猛暑の影響により、夏休みにおける子どもたちの過ごし方も変化しています。今年の夏は危険な暑さが続き、公園で過ごす子どもたちの姿はほとんど見られませんでした。夏季休業中は家で一人で過ごす子どもも多く、友達や地域の人と関わるができる場の重要性が一層高まっています。そういった状況において、人との関わりを持ったり、自由に立ち寄ったりすることができる放課後子ども教室や「はちビバ」（子ども若者育成支援センター）は、特に長期休業中の子どもたちにとって貴重な居場所です。こうした居場所の果たす役割や意義について何うとともに、そのような公共の居場所が設置されていない地域は、地域住民と行政が連携し、こどもの居場所の確保に向けた取組を一層進めていくことを求めました。

命にかかわる危険な暑さへの対策

今年、八王子では8月に40.3度という市内の公式観測地点での最高気温が記録されました。災害級レベルの猛暑が今後も見込まれ、市民の健康や日常生活を守っていくためには熱中症予防対策の更なる強化は不可欠です。そこで、熱中症のリスクが特に高い高齢者への働きかけや学校の部活動での対策について市の取組を質問しました。

また、暑さ対策としてはもちろんのこと、環境面への配慮から多くの人がマイボトルを使用している状況を踏まえ、ボトルディスペンサー型の給水機を設置を求めました。



浅川地下壕について

浅川地下壕は歴史を体感し平和を継承するための貴重な地域の戦争遺跡です。

2026年10月にオープン予定の「桑都の杜」に開設される歴史・郷土ミュージアムにおいて、浅川地下壕の戦災資料の展示を求めました。また、戦後80年が経過し、当時の記憶を持つ方も少なくなる中、地下壕に携わった方や地域に住んでいた方の証言は平和を後世に伝えていくためのかけがえのないものです。こうした貴重な記憶を後世に残していくことの重要性をどう認識しているのか市の見解を何うとともに、市民団体や地域の方がこれまでの活動の中で蓄積してきた地下壕についての知見の共有を求めました。市からは、貴重な資料や知見の継承につなげていきたいとの答弁がありました。



浅川地下壕 内部の様子



（参考文献）
揺籃社ブックレット



10月26日
浅川地下壕見学会
地下壕入口にて



活動報告



7/26 相模原市 津久井やまゆり園 追悼の献花



地域の生活に必要な多機能が凝縮しているエリア（西東京市）を視察

- 「パスレル保谷」保育園、介護施設、食材が買える店、カフェ、シェアオフィス、住宅等が揃う4F建ての複合施設
- 社会福祉法人「悠遊」 ●コミュニティー・レストラン「木・々」

